

製品名: TXNIP (15D1) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe19458**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IF-P
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:200,IF-P 1:100-1:200
分子量	44kDa

抗原情報

遺伝子名	TXNIP
別名	HHCPA78; THIF; TXNIP; VDUP1;
遺伝子 ID	10628.0
SwissProt ID	Q9H3M7
免疫原	ヒト TXNIP の合成ペプチド

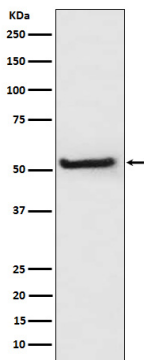
背景

チオレドキシン活性を阻害するか、そのバイオアベイラビリティを制限することで、酸化ストレスメディエーターとして作用する可能性があります。COPS5 と相互作用し、COPS5 による CDKN1B の安定性の抑制を回復させ、COPS5 を介した CDKN1B の核から細胞質への移行を阻害します。チオレドキシン活性を阻害するか、そのバイオアベイラビリティを制限することで、酸化ストレスメディエーターとして作用する可能性があります。COPS5 と相互作用し、COPS5 を介した CDKN1B の安定性の抑制を回復させ、COPS5 を介した CDKN1B の核から細胞質への移行を阻害します。転写抑制因子として機能し、おそらく転写因子とコリプレッサー複合体の間のブリッジ分子として作用し、過剰発現は G0/G1 細胞周期停止を誘導します。ナチュラルキラー細胞の成熟に必要です。腫瘍細胞の増殖の抑制因子として作用します。DDIT4 のプロテアソーム分解を阻害し、それによって哺乳類ラパマイシン標的タンパク質複合体 1 (mTORC1) の阻害に寄与します。

研究分野

-

画像データ



BxPC-3 細胞溶解物における TXNIP 発現のウェスタン プロット解析。